

令和5年度第1回広島県公立大学法人評価委員会

- 1 開催日時：令和5年7月12日（水）09：30～11：30
- 2 開催場所：サテライトキャンパスひろしま 504 中講義室
- 3 出席者：【評価委員会】曾余田委員長、浅田委員、山川委員
【法人】鈴木理事長、森永学長、有信学長、津森副学長、馬本副学長、保井学部長、
太田事務局長 外
- 4 議題：令和4事業年度業務実績及び第三期中期目標の終了時に見込まれる業務の実績に関する報告及び評価
- 5 担当部署：環境県民局高等教育担当

【質疑】（評価委員：○、広島県公立大学法人：●）

- 国際化の推進について、令和4年度はコロナ禍の影響が残る中、学生の海外派遣、留学生の受入れに取り組んだと思うが、中期目標期間終了（令和6年度）までの見通しをどのように考えているか。
- 県立広島大学では、長期留学は例年並みに回復している一方で、短期留学の回復が遅れている。学生アンケートでは、経済面や語学力への不安の声が上がっていたので、留学前の語学研修や経済支援の強化を通じて、特に短期留学の目標達成に向けて取り組みたい。なお、令和4年度に実施できなかったベトナムへの短期留学について、本年9月に40名を派遣することとしている。
- 叡啓大学では、国際交流協定締結校を拡充し、長期・短期の留学に加え、海外インターンシップやボランティアを実施するとともに、交換留学生の受入れも進めている。留学生選抜では、志願者数が、令和3年度20人、令和4年度22人、令和5年度31人と着実に増えており、引き続き、志願者確保に取り組んでいく。
- 地域に根差した高度な研究の推進について、研究支援は大学運営における大事な柱と考えるが、叡啓大学では、どのように取り組んでいるのか。
- 叡啓大学では、研究推進制度を設けて、教員からのプロポーザルを受け付け、審査の上で研究費の配分を行うほか、外部資金の獲得に向けた様々な支援を実施している。
- 叡啓大学の新しい教育プログラムへの志向性の高い高校とのマッチングなど、志願者確保に努力しているが、中期目標終了年度までに志願倍率の目標達成は厳しいのではないかと感じる。引き続き、努力を続けてほしい。
- コンプライアンスの確保について、過去の監査の指摘に対する改善点が残る中、自己評価は「3」でよいのか。それを改善した上で、再発を防止することが大切ではないか。
- 令和2年度・3年度の外部監査での指摘を踏まえ、専任職員を配置して監査体制を強化した上で、令和4年度には全ての契約事務を確認し、不適切な処理への是正指導を実施した。また、チェックシートの作成や設計業者と契約して助言をもらう体制の整備など、再発防止策を講じたところであり、一定の改善が図られたことから、自己評価を3とした。
- 中間評価については、中期目標期間終了時に見込まれる実績を評価することを踏まえ、現状、法人として何が一番の課題と考えているのか。
- 県立広島大学については、志願倍率が低下している中で、いかに大学の魅力を発信していくかが重要と考えている。
- 叡啓大学も、志願倍率が課題であるが、実績がない中で、大学の教育理念について、高校の教員や保護者の理解が十分に進んでおらず、いかに理解促進を図るかが課題である。